

『県道5号大牟田南関線について』  
『今こそ、農業の下支え策を!』



広報常任委員長  
議会運営副委員長  
総務産業常任委員

# 伊藤博長

## 県道5号大牟田南関線について

県主体の工事ではあるが、下記の3点について、工事が進まない具体的な理由と今後の工事の見通しを問う。

### 1. 落合交差点の工事が中断している。

**(町長)** 県の回答だが、本年度交渉を行っているが、種々の課題案件があり合意に至っていない。

### 2. 落合交差点から名古瀬までの歩道整備。

**(町長)** 20年程前に単県交通安全施設事業として、県道荒尾・南関線の歩道整備に取り組みましたが、道路用地への承諾が得られず、県はこれで一旦終了と判断している。

### 3. 八角目方面への道路拡張工事。

**(町長)** H24年度からの計画では、町道久重中線入口付近までを計画。この時の地権者説明会記録に「落合入口の改良が出来ていないのに途中の改良はありえない」と複数の方から意見が出ており、交渉が中断している。

答弁の中での「種々の課題案件」ではわからない。具体的に合意に至らない地権者は何件、どのような理由で解決できないのか。

**(建設課長)** 県のほうから詳細は聞いていない。

とにかく落合交差点の工事が進まないとい他の工事は進まないということ。地元に関心も高いので、県に対し再度働きかけを行い、地元協力のもと1日も早く地権者の方のご理解を得てほしい。



## 今こそ、農業の下支え策を!

肥料、資材、燃油等の高騰は続いており、農業者の経営を圧迫している。引き続き農家の下支え策を行う必要があるが、昨年度と比較し極端に減少している。予算が厳しいことは理解するが、今後の農業経営の下支え策を問う。

**(町長)** 本町でも、物価高騰の影響を受けた生活者や事業者、農林業者に対し、負担軽減や地域経済の活性化を目的とした各種支援を行っている。今後も国・県及び他地方公共団体の施策を鑑み、農林業の振興を図るための支援策をしっかりと実施したい。

今年度、荒尾市で燃油価格高騰対策支援金事業をやっている、南関町ではやっていない。この違いは。

**(経済課長)** R2年度からコロナ調整交付金を活用して、いろんな分野の農業関係の支援を行っている。昨年度は、燃油高騰等に対する支援、今年度もいろんな交付金、補助金を模索したが、燃油高騰対策に向けての支援が今はできてない状態。今後、新たな交付金、補助金等の活用が見込まれる事業があれば即対応したい。

特に心配するのが若手農家で、加温機を導入している施設園芸農家が多い。若手農家は経営基盤が脆弱で、お金のかかる子育て世代でもある。将来の南関町農業を担う宝ですので、優先して下支え策が今必要だ。

和水町の農業機械等補助金事業は、個人の場合、事業費の20%、限度額が100万円。法人や営農組織の場合は限度額が200万円。南関町でいうと高度化推進事業になるが、南関町は個人法人に関係なく、事業費の30%、限度額が40万円であり大きく差がある。和水町の農業機械等補助金の事業予算規模は。

**(経済課長)** 今年度は330万円。

耕作放棄地や竹林整備対策で、竹の粉碎機、ラジコン式の草刈り機等、高価な機械を町で保有して住民に貸し出す事業はできないか。

**(経済課長)** 和水町に限らず、他の各自治体でも機械を保有されているところはあり、以前から町のほうでも、JA様とも検討した経緯がある。

機械のメンテナンスが必要になってくるので、今、町ができることは、今年度から竹の粉碎機等に関して、各個人がリースをされた部分に対して補助するしくみである。





文教厚生常任委員長  
議会運営委員

## 北原浩一郎

### 『人口減少社会を生き抜くために』

**(町長)** これまでのこの町の時代背景や、御茶屋跡や参勤交代の豊前街道もある。関所まつりはこの地域でやるべきと考える。



町内の訪問看護ステーションと連携した訪問型はどうか。

**(町長)** 訪問型の条件が、病児の自宅において実施するとなっている。

0歳～2歳児はいつも病気になるし、本当に日々苦労されている。アンケートの声を活かし、町内での事業展開を求める。

#### マルシェ開催事業、住民提案型事業を実施した団体の交流の場、情報交換の場を

今、未来構想の中のステップ2、仲間を増やす段階だと思う。今回地域づくりに参画した人たちのネットワークを作っていく必要がある。皆さんはそれぞれ町内の各校区に住んでいる。同じ校区の課題を抱えている人たちが、集まる場が生まれれば、新しい動きが始まるはず。

**(町長)** 地域未来構想のステップ1からステップ4のステップ2の段階だ。早くステップ3に近づけるように皆さんの集まりを作っていくのが、事業を早く進めるコツの一つでもあるので、ステップ3の校區別の活動ができるようないろんな問題もまた提案いただけるような場、そういった会を催したいとは考える。

#### ふるさと関所まつりを校区回し開催に

この1年間、新庁舎周辺では、防災広場やうから館を利用したイベントが立て続けに開催されている。中心市街地のにぎわい創出や関係人口を増やすという点からは良い方向だ。反面、この地域にイベントが偏っているという声もある。町主催だからこそ、関所まつりを校区回しでやったらどうか。

#### 校区ごとの新しい祭り創出補助金を

校区主催のイベント限定の補助金で、地域づくりに参画された方と地域の人たちが一緒になって校区ごとの祭りをつくり上げる。盆踊りでもクリスマスイベントでも何でもいい。その地域で協働して成し遂げることが、この人口減少の中でコミュニティをつなぎ直すことになる。それを目的とした補助金はどうか。

**(町長)** 同じようなことを考えている。校区ごとに助成金、補助金を組むのか、協議会全体で組んで、そのあと、地域ごとに考えていくのかだ。行政はリードしていくが、最終的にはその地域に住む皆さんが、自分の地域をよくしようという気持ちが一番大事だ。

#### 病児・病後児保育事業は

令和5年度の利用内訳と町内に施設ができて来なかった理由は。

**(町長)** 玉名市0名、荒尾市74名。保育士と看護師が必要、また施設の確保ができなかったと考える。

#### 女性専用総合窓口を

子育て支援、就業窓口も含めた子育て世代のお母さんに寄り添う窓口。そこに行けば情報があり、親身になって対応してくれる女性専用総合窓口が必要と考えるが。

**(町長)** 保健医療福祉、教育等の関係、仕事面も含めて相談できるような、仮称「子ども家庭センター」を来年の4月に設置する。ワンストップで全てのことが相談できて解決できるものを想定している。

お母さんたちは、未来の南関町を担ってくれる子どもたちを産んで下さる、育てて下さるお母さんたちなんだという思いが大切。これまで対策が弱かった部分を強化することが、これからの道ではないか。今こそ産み育て、働く女性を大切にする施策の充実が必要である。



# 『住民と行政による協働のまちづくり』と『職員の資質向上と職場づくり』について



議会運営委員長  
文教厚生常任委員

## 中村正雄

### 町政反映への結果報告

ワークショップやアンケートなど町民が声を発する機会が増えて、まだ一部であるが町民から協働のまちづくりに期待する意識が出てきている。一方で、その声が町政に反映されているのが見えないので、意欲が低下してきているのを危惧する。町政への反映を検討した結果をフィードバックする仕組みを作られないか？

**(まちづくり課長)** 出た意見や声はホームページなどで公開し、検討委員会も公開式で開催しているが、反映していることが分かるように検討していく。

町民には知る権利があり、フィードバックすることで信頼感が生まれ、協働のまちづくりが広がっていく。伴走型の考えで進めていけないか？

**(町長)** いろんなことを公開することにこだわり信頼関係を高めてきた。伴走型は町民と一番近づける、そして信頼関係のもとで新しいことを生んでいくやり方であり、全ての事業に伴走型が当てはまるかは分からないが、進めていきたい。

教育委員会でもアンケートでの町民の声に答えていくことは考えているか？

**(教育長)** 学校の在り方についてのアンケートを12月から開始した。分析し、これからの方向性を考える重要な資料としていき、町民にしつ

かりと答えていく流れを大切にしてい



### 住民提案型の継続策

今の制度だと、2年目は1/2額になり、続けたくてもまだ力がなくできない。3~5年計画での育成型にしたらどうか？

今の制度はできるだけ多くの人に仲間と一緒に町のために活動してみる参加目的には向いているが、自立するグループを作っていく目標には難しい。テーマを町の課題解決型にし、グループに補助金を出しながら、NPOに近い形で自立するのを育成していく。

今の完全ボランティア型では難しいと思う。並行して別に制度を作る考えはないか？

**(町長)** 町の課題解決型事業という町民の困りごとを町に代わってできるなら、それに対して補助が出せる仕組みを認めていく必要がある。

**(まちづくり課長)** 別の補助金でなくても、今の住民提案型事業の要綱で、育てていくもの、課題解決に伴うものに対する補助金のやり方を検討してみる。



### 職員のモチベーション

協働のまちづくりのもう一つの大きな要因に、職員のまちづくりに対してのモチベーションを上げていくことがある。仕事が楽しいとモチベーションが上がって成果が出るし自分も成長するとシンプルな考え方の人事制度を検討してみたらどうか？

**(総務課長)** 国の指針に則った中でも、職場以外でもいろんなところで活躍している職員はいるので、そういったチャレンジ精神を認めてやって、今後は進めていく必要がある。

### ハラスメント条例

モチベーションは、上げるのは大変だけど下げるのは簡単。何気ない一言が一気下げることがある。職場環境づくりのために、ハラスメント条例を我が町でも検討しないか？

**(総務課長)** 今の南関町職員ハラスメント防止に関する要綱は内部的なことを謳っており、今後は外部的なハラスメントから職員を守るために考えていく必要がある。



# 『住民と行政による協働のまちづくり』と『職員の資質向上と職場づくり』について



議会運営委員長  
文教厚生常任委員

## 中村正雄

### 町政反映への結果報告

ワークショップやアンケートなど町民が声を発する機会が増えて、まだ一部であるが町民から協働のまちづくりに期待する意識が出てきている。一方で、その声が町政に反映されているのが見えないので、意欲が低下してきているのを危惧する。町政への反映を検討した結果をフィードバックする仕組みを作られないか？

**(まちづくり課長)** 出た意見や声はホームページなどで公開し、検討委員会も公開式で開催しているが、反映していることが分かるように検討していく。

町民には知る権利があり、フィードバックすることで信頼感が生まれ、協働のまちづくりが広がっていく。伴走型の考えで進めていけないか？

**(町長)** いろんなことを公開することにこだわり信頼関係を高めてきた。伴走型は町民と一番近づける、そして信頼関係のもとで新しいことを生んでいくやり方であり、全ての事業に伴走型が当てはまるかは分からないが、進めていきたい。

教育委員会でもアンケートでの町民の声に答えていくことは考えているか？

**(教育長)** 学校の在り方についてのアンケートを12月から開始した。分析し、これからの方向性を考える重要な資料としていき、町民にしつ

かりと答えていく流れを大切にしてい



### 住民提案型の継続策

今の制度だと、2年目は1/2額になり、続けたくてもまだ力ができない。3~5年計画での育成型にしたらどうか？

今の制度はできるだけ多くの人に仲間と一緒に町のために活動してみる参加目的には向いているが、自立するグループを作っていく目標には難しい。テーマを町の課題解決型にし、グループに補助金を出しながら、NPOに近い形で自立するのを育成していく。

今の完全ボランティア型では難しいと思う。並行して別に制度を作る考えはないか？

**(町長)** 町の課題解決型事業という町民の困りごとを町に代わってできるなら、それに対して補助が出せる仕組みを認めていく必要がある。

**(まちづくり課長)** 別の補助金でなくても、今の住民提案型事業の要綱で、育てていくもの、課題解決に伴うものに対する補助金のやり方を検討してみる。



### 職員のモチベーション

協働のまちづくりのもう一つの大きな要因に、職員のまちづくりに対してのモチベーションを上げていくことがある。仕事が楽しいとモチベーションが上がって成果が出るし自分も成長するとシンプルな考え方の人事制度を検討してみたらどうか？

**(総務課長)** 国の指針に則った中でも、職場以外でもいろんなところで活躍している職員はいるので、そういったチャレンジ精神を認めてやって、今後は進めていく必要がある。

### ハラスメント条例

モチベーションは、上げるのは大変だけど下げるのは簡単。何気ない一言が一気下げることがある。職場環境づくりのために、ハラスメント条例を我が町でも検討しないか？

**(総務課長)** 今の南関町職員ハラスメント防止に関する要綱は内部的なことを謳っており、今後は外部的なハラスメントから職員を守るために考えていく必要がある。



『町の経済活性化について』  
『複雑化する子どもの現状について』



総務産業常任委員

境田敏高

町の経済活性化について

新型コロナウイルス感染拡大に起因する倒産が増え、コロナ禍の影響が長引いている。昨年の全国倒産件数負債額1000万円以上は6428件と3年ぶりに増加、県内でも同じく3年ぶりに増加している。

南関町では地域活性化のために小規模企業者の保護、育成を図り町民の生活の向上に寄与する目的で小規模企業振興基本条例が制定されているため、町は将来にわたって安心して生活ができるように町内事業者と一緒に地域活性化を今一歩進めなければならない。

そこでコロナ禍からの経済回復が遅れ、産業や地域を問わず倒産が増えているが、わが町の小規模事業者等の現状と活性化対策を尋ねる。

**(町長)** 町でも活力が低下し、多くの事業者に影響を及ぼしている。活性化対策としては、巡ってお得シールラリーの実施や今回5回目となるトッパ商品券の交付により事業者の支援を行なっている。

また、小規模事業者の現状については、国の小規模事業者持続化補助金を活用して販路拡大等の事業の実施を進められた事業者が数件あった。事業者の高齢化による後継者不足や病気等により廃業をされた方もいる。



後継者不足に関しましては、熊本県商工会連合会が事業承継支援事業を行っており、町も商工会と連携して対策を図っていく。また、町が発注する小規模な工事等については、引き続き小規模事業者の登録を行い、積極的な活用を図って行きたい。



複雑化する子どもの現状について

深刻な事例は後を絶たない。

いじめ防止対策推進法が施行され、10年が経過したが、昨年度のいじめ認知件数68万1948件、重大事態件数923件でともに過去最高を更新した。自殺や不登校につながる深刻な事例は今も全国で後を絶たない現状が見受けられる。

わが町の現状と対策を尋ねる。

**(教育長)** 昨年11月の「心のアンケート」結果では、「いじめられたことがある」と回答した本町児童生徒は、小学校22.6%（前年度18.8%）、中学校1.1%（2.4%）で、小学校で増加している。

その中で、「学校の認知件数」は小学校4件（前年度5件）、中学校0（前年度0件）である。ただ、本年度の現状として、中学校でいじめ事案が1件起きており、今、その解消に向けて指導を続けている。

また、不登校（欠席等30日以上）は、増加傾向にあり、昨年度は小学校3名、中学校22名合計25名と、とても厳しい状況であった。

本年度10月末の現状は、小学校5名、中学校13名で合計18名となっており、その内5名は適応指導教室（陽だまりルーム）で学んでいる。

いじめや不登校の対策について、まずは未然防止の取組として、「子どもの居場所づくり推進テーブル」の実践や分かる授業の実践、学校・学級風土の見える化など、新規の不登校を生み出さない魅力ある学校・学級づくりを推進している。

早期発見、初期対応の取組としては、「愛の1・2・3運動+1」の実施徹底を始め、今、心のSOSを早期に察知する仕組み（一人1台端末活用）の導入に向けて動き始めている。また、不登校の対応として、小学生が増加傾向にあることから小中連携した取組や民間施設との連携等、個々の児童生徒の自立に向けた支援についても実施・検討している。





## 南関宿場町伝楽人

## & 広報委員



議員

南関宿場町伝楽人とは、どのような組織ですか？

御茶屋跡の管理運営と、御茶屋跡を含めた町内史跡めぐり客への案内・説明の出来る人材育成のための文化財ボランティア団体です。

伝楽人の由来は、

- 自分達の地域の良さを再認識し、歴史や文化を知ることの楽しさ
- 知り得た良さを「人」に伝えること  
後世に伝えること

議員

活動の中心は御茶屋跡だと思いますが、御茶屋跡の歴史的価値は何ですか。

南関御茶屋は、嘉永5年(1852)に完成したものです。現在主要な建物一棟と心字をかたどった池を配した庭園が残ってます。

特に九曜紋や鬼瓦や釘隠しが細川家とのゆかりをものがたっています。参勤交代の折は、大名行列がこの町を通り、藩主はこの御茶屋で宿泊や昼食をとっていました。御茶屋に関する建物が現存するのは県内でも唯一で、貴重な文化財といえます。平成15年に国指定史跡に指定され、平成17年に修復工事が完了し、平成20年度には熊本県地域景観賞を受賞しました。



雪の御茶屋跡

議員

御茶屋跡で開催される行事や今年の活動を教えてください。

- ひなまつり (2月中旬～3月末)



- ユリ展 (6月上旬～中旬)



- セタまつり (7月3日(水)～15日(月・祝))



- 子ども伝楽人ボランティア活動体験 (7月下旬 (小学校夏休み期間))

- 菊花展、白秋祭 in 母の里なんかん (11月2日(土)～4日(月))

- 紅葉祭 (11月24日(日))



その他、町で開催される関所健康マラソンでの松風トンネル内に竹灯籠設置、ふるさと関所まつりでの町の歴史・文化紹介ブース、陶器・梅まつりでの抹茶休憩所運営など、行事を盛り上げる活動もやっています。

また、今年は発足20周年になるため、何かイベントができないかを検討しています。

議員

この会に入ったきっかけやよかったこと、大変なこと、これから期待することなどお話しください。

会員の皆さんの感想

- 良かったことは、それまでの私では交わることはなかったいろんな人と知り合えたことが1番。その次に、自分があるこの地の歴史に触れることが出来る点。それに、いろんな所を訪問させてもらえます。  
大変なことは、やはり人が集まるといろいろあるから難しいことも出てきます。まー、楽しいことの方が多から、よし！ですが。
- 東京近郊から南関町に帰っておどろいたのは、高齢化・少子化に伴う人口減少でした。  
何かの形で町の貢献・協力を考えていた時に、御茶屋跡伝楽人のお誘いがありました。  
御茶屋跡の歴史的背景を知ること、自分が住んでいる町の歴史を知るきっかけになりました。  
町の文化財を守ろうとする心は、自分が今生活している場所を大切に作る心にも繋がります。  
七夕飾りや紅葉祭など、四季折々のイベントによって、これからも皆さまとの出会いを楽しみにしています。
- 伝楽人に、参加し、御茶屋の歴史を知るばかりではなく、様々な研修を受けて南関町の歴史、熊本の歴史へと、知識、興味が広がりました。

議員

今抱えている課題はありますか。

発足当初は40人を超える会でありましたが、現在は22名。高齢化により会員が減ってきています。  
行事も昔は盆踊りや豊前街道を歩くなど勢力的な活動もしていましたが、会員数の減少により行事の開催も年々厳しくなっています。  
会員の敷居を低くし、清掃ボランティアや当番ボランティアなど、やはり若い世代が入会しやすい環境づくりなど、町の方もいっしょに考えてほしいです。



お茶屋の展示物



南関宿場町伝楽人のみなさん

前列左から

島崎	禮子	さん	(関村)	
鈴木	郁子	さん	(小原)	
北山	二三子	さん	(関下)	
野口	第三郎	さん	(肥猪)	
永松	一徳	さん	(小原)	会長
北原	秀樹	さん	(関町)	副会長
北津	留美	津子	さん	(関東)
片山	博世	さん	(細永)	

後列左から

佐藤	恵美	さん	(関町)	
坂本	啓士	さん	(関町)	
安永	義隆	さん	(宮尾)	
戸上	恵理子	さん	(相谷)	
山下	みき	さん	(豊永)	
浦原	茂子	さん	(関村)	
野田	泰臣	さん	(関町)	副会長
守田	節子	さん	(関下)	

写っていないメンバー

金澤	安則	さん	(関町)	
江崎	洋治	さん	(関町)	
中村	正雄	さん	(関町)	
栗原	澄代	さん	(大牟田市)	
仲本	久美	さん	(関下)	
谷崎	一見	さん	(肥猪)	

随時 会員募集中!

入会は、0968-53-0859 まで  
南関宿場町伝楽人の Facebook  
<https://www.facebook.com/dengakunin/>



町の観光を担う重要な文化財ボランティアで、素晴らしい活動をされています。中でも「子ども伝楽人ボランティア活動体験」は、将来の子どもたちが南関町の歴史を学ぶ貴重な機会です。

しかしながら、高齢化により会員数が減って来ており、会の運営が年々厳しくなっていると感じました。

今後、少子高齢化の時代でも持続可能なボランティア活動にするための施策について、町のほうでも真剣に考える必要があります。

広報常任委員会

## 私が考える、南関町の未来



南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

今、南関町は急速に人口が減少し続けています。このまま自分のふるさと、南関町が超過疎地域になり活気が無くなってしまふのはとても悲しいです。南関町は子育て支援やたくさんのイベントを行っていますが、なかなか人口減少を食い止めることはできていません。このような人口減少は南関町に限ったことではなく、日本全体の問題だと思います。

私は特に、日本の人口が減少しているのは若い人たちが選挙に行かないことが大きな原因だと思います。選挙に行く若者が少ないことで若者たちが国政に求めている意見が反映されにくくなり、現役世代が生きづらい社会になってしまっています。その状況を変えるためには私たち学生が学校で選挙の大切さを学び、みんなが選挙に行くことが重要だと思います。

私も3年後には選挙権を持つことが出来ます。南関町を盛り上げられるような、国を活性化させていけるような人に投票したいです。そして活気あふれる南関町、日本になって欲しいです。

## 議会傍聴しませんか

12月定例議会の傍聴人数はのべ10人でした。

5日：7人、6日：3人

定例議会は、年に4回・・・3月、6月、9月、12月に開催。 ●どなたでも傍聴できます。 ●定員 30人

## 議 会 日 誌

### ■10月

- 10月6日(金) 熊本県町村議会議員研修会  
広報常任委員会
- 10月12日(木) 文教厚生常任委員会
- 10月18日(水) 総務産業常任委員会
- 10月20日(金) 広報常任委員会
- 10月23日(月) 全員協議会
- 10月27日(金) 第5回臨時会、議会運営委員会
- 10月31日(火) 広報常任委員会

### ■11月

- 11月9日(木) 文教厚生常任委員会
- 11月10日(金) 町村議会広報研修会
- 11月15日(水) 総務産業常任委員会
- 11月17日(金) 全員協議会、議会運営委員会
- 11月21日(火) 文教厚生常任委員会
- 11月21日(火) 総務産業常任委員会視察研修  
～22日(水)
- 11月24日(金) 議会運営委員会

### ■12月

- 12月5日(火) 第6回定例会
- 12月6日(水) 第6回定例会  
文教厚生常任委員会  
総務産業常任委員会  
広報常任委員会  
議会運営委員会
- 12月7日(木) 全員協議会
- 12月8日(金) 第6回定例会

## テーブルイク



### 「野球しようぜ!!」

エンジェルスからドジャースへ移籍が決まったメジャーリーガーの大谷翔平選手。子ども達のヒーローであり、世界的スーパースターである。その大谷選手から日本の小学校全校に、グローブが配布され、本町も漏れることなく四つの小学校に、そのグローブが届いている。大谷選手のおかげで近年、他のスポーツに押され気味だった野球が、また子ども達の人気のスポーツに返り咲いた様にも感じる。石川県能登半島では、大地震が発生し、亡くなられた方、また、今もなお安否確認が出来ていない方が大勢おられ、余震もまだまだ続いている。熊本地震を経験した私たちだからこそ被災地への想いは特別な物がある。大谷選手のグローブも被災地能登半島にも届いているはずだ。子ども達の夢や希望は災害などには負けていられない、また無くしてはいけない。そんな勇気を与えてくれる感謝の品物になった。そんな未来の野球選手を目指す子ども達へのプレゼントを何処かの市長は開封し市役所に展示したらしい。大谷選手の野球への想い、それを待っていた子ども達の期待。幸い我が町は子ども達が一番に受け取り、肌に触れて憧れのヒーローを自分なりに感じられたのではないかと私は少し安堵した。

(福山美佳)

前回の議会日より「山郷」第71号において、誤字脱字などのご指摘をいただきました。この件で、町民の皆様にご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。原因は印刷業者とやりとりした後の最終版のチェックが甘かったと分析しております。最終版の確認を確実にやるような運用にして、今後このようなことがないように改善します。  
(広報常任委員会)

□ 発行責任者

議長 立山秀喜

□ 編集(広報常任委員会)

委員長 伊藤博長

副委員長 矢野修一

委員 山口純子

委員 福山美佳